

2021年12月20日

## 通貨ニュース

# メキシコ：利上げペースの加速を迫られた Banxico

メキシコ中央銀行(Banxico)は16日、金融政策決定会合を開催し、政策金利(翌日物金利)を50bp引き上げて5.50%とすることを決定した(図表1)。利上げは6月以降、5回連続。声明文によれば、ディアス・デ・レオン総裁含め4名が50bpの利上げを主張、1名は利上げ幅を25bpにとどめるべきと主張した。会合を控えて、エコノミストの多くは25bpの追加利上げを予想していた。

Banxicoが利上げペースを加速させた理由は、足許でのインフレ圧力が予想以上に強まっていることやそれが長期化しうることへの警戒感がさらに高まったことにある。11月の消費者物価指数(CPI)は前年比+7.37%と前月(同+6.24%)から大きく加速(図表1)。9か月連続で同行の目標レンジ(前年比+2%~+4%)を上回るとともに、水準としては2001年1月以来の高さとなっている。コアCPIも同+5.67%まで加速しており、こちらも2001年11月以来の水準である。

先々のインフレ見通しも上振れが続いている。Banxicoの公表した最新のCPI見通しでは、足許の2021年10~12月期から2023年1~3月期にかけての6四半期について、前回会合時点から上方修正が加えられている(図表2)。また、コアCPIの見通しについては、2022年4~6月期から2023年10~12月期にかけての修正幅が、ヘッドラインベースのCPIのそれを上回った。同行の従来予想以上に、インフレ圧力がより広範に長期化するとの認識に至ったことが読み取れる。

実際、Banxicoはインフレのリスクバランスについて、従来からの上方に傾いているとの認識とともに、「さらに悪化している(deteriorated further)」と警戒感を強めている。また、今回の声明文からは、物価上昇を促してきた要因は一時的なものと考え、との以下の一文も姿を消した。

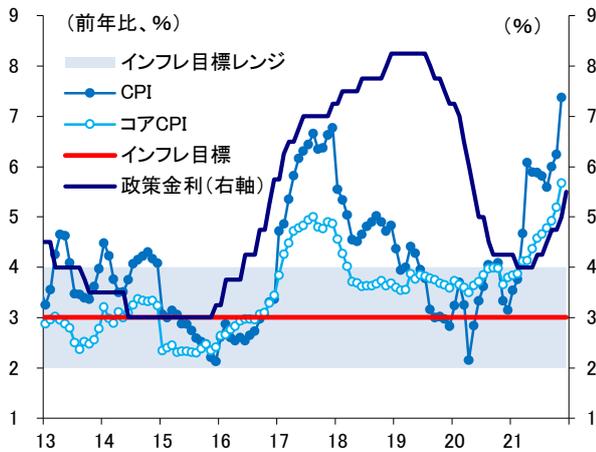
**The shocks that have increased inflation are largely considered to be transitory.**

次回会合(2月10日開催予定)に向けては、従来通り、インフレ及びBanxicoのインフレ見通しに関する予測軌道に影響を与えうるあらゆる要因とともに、実際のインフレ圧力の動向を徹底的に監視していくとした。高いインフレ率そのものが、将来のインフレ率やインフレ見通しに上昇圧力を加えうるとの問題意識は変わらない。その上で、Banxicoは、インフレ率が予測期間の最後までに(by the end of the forecast horizon)同行の目標値(前年比+3%)に落ち着いてくるよう、利上げペースを調整していくことになる。

こうした中、年初にBanxicoの新総裁に就任するロドリゲス財務公債省次官の政策の舵取りが注目される。ロペスオブラドル大統領との近さが市場では懸念されており、同大統領の拘る財政均衡と景気下支えの必要性とのバランスを取るべく、金融政策が運営されるのであれば、市場の波乱要因となりうる。

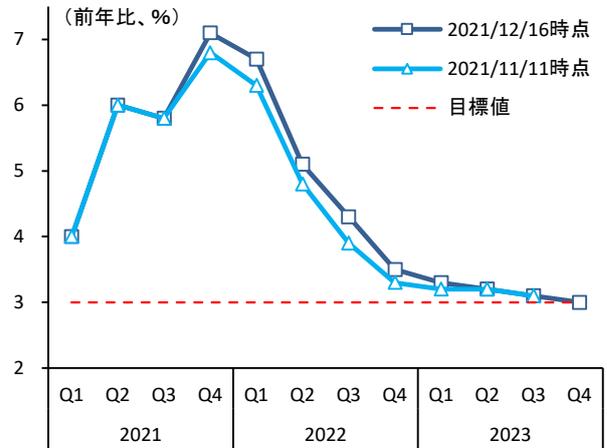
市場営業部  
マーケット・エコノミスト  
堀内 隆文  
03-3242-7065  
takafumi.horiuchi@mizuho-bk.co.jp

図表 1: 政策金利とインフレ率



出所: メキシコ中央銀行、地理統計院、ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 2: Banxico の CPI 見通し



出所: メキシコ中央銀行、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。